

ニコニコおにぎり

中川小学校 三年 小林 えみる

「お姉ちゃんのおにぎり出来たよー!」

わたしがさけぶと、ダダダーとかいだんを下りてくる弟。ニコニコのえ顔で口いっぱいにはわたしの作ったおにぎりを食べてくれる。

わたしも顔がにやけてきちゃう。うれしいな。わたしには、一年生になつた弟がいる。小学校に入ったばかりは、毎日つかれてしまつて、朝もなかなか起きられなかつた。おぼけ

ながらご飯を食べる、弟がどうしたら元気に学校へ行けるのかお母さんにそうだんしてみた。すると、「えみるがおにぎりを作ったらびっくりするんじゃない?」って教えてくれた。次の日、さっそく朝一采たすいはんきを聞いた。もわっとしたお米のにおい。しかもじで、まぜるとモコモコふわふわ。あついから少しさまし、手に水をつけてご飯をキュッとした。「げんちゃん食べてくれるかな。」とお味のおにぎりをにぎりながら、弟のえ顔を思

いうかべた。まだねむそうな弟に、

「お姉ちゃん、おにぎり作ったよ。いっしょに食べよう。」

弟は、びっくりした顔をして、おにぎりをほうばりニコツとした。

わたしの家の目の前には、田んぼが広がっている。五月の連休のころには、田植えをし、六月には、いおかりをする。しゅうかくまでには、水のかんりが、びょうがいちゅうのはっせいなど、いろいろなくろうもある。おい

いちがんが、朝早く田んぼを見に行くこともたびたびだ。

だから、新米ができた時には、朝がぐたよろこび、みんなでいっしょうけんめい作ったお米は、とくべつおいしい。そんなお米で作ったおにぎりだ。食べれば、弟も毎日元気に学校に行けるはず。

わたしの作せんは大せいこう。あの日から、わたしは、わたしの作ったおにぎりがお気に入り。また今日も元気に学校へ行くこうね。